



仕事が終わった夜の作業場で、撮影が行われていました



円盤投げの金属部分。エッジの角度や重さなどで飛距離が変わります

## 「超絶凄ワザ！」に 斉藤クラフト(有)が登場 繊細なものづくりを披露

「不可能を可能にする技術者の『凄ワザ』が世界を変える！」がテーマのNHKのテレビ番組「超絶凄ワザ！」に、斉藤クラフト有限公司（中原工業団地 斉藤秀雄社長）が登場します。

斉藤さんの会社は、自動車の販売や車検・整備、板金・修理等を行う会社で、エコカーや電気自動車の製作にも取り組んでいます。斉藤さんご自身がカーボン加工に特にすぐれた熟練の技術を持ち、全てがカーボン製のボディを持つ自動車を独自で開発し、さまざまなエコランレースで数々の入賞を果たしています。

10月30日(月)に放送予定の「凄ワザ！」

は、「凄ワザでメダルを目指せ 東京五輪スペシャル」と題されており、日本人選手がメダルを取るために、使用する道具をどこまで改良し記録を伸ばすことができるかということにチャレンジするドキュメント番組です。

山形大学地域教育文化学部の工学博士である瀬尾和哉教授とタッグを組み、陸上の円盤投げの円盤の改良に取り組む斉藤社長の姿が紹介されます。

円盤投げの円盤は、現在はFRP（強化プラスチックの一種）の胴体に金属の縁枠をはめたもので、女子選手の使用する重さの規定は1,005gから1,025gとなっています。この規定の中で、握りやすさの角度を調節したり、遠心力がより外側にかかるように部品の重さの配分を変更してみたりという試行錯誤をして円盤を製作する様子が、撮影されていました。

斉藤社長は、「一般に売られているものとは違う、瀬尾先生の理論の円盤を作って、距離の伸びを探っています。1gの違いや選手の手感覚など、微妙なさじ加減でカーボンを削る必要があります、大変な挑戦になっています。金属部分の加工には、同じ中原工業団地内の有限会社東海林製作所（東海林光芳社長）さんに協力いただいています。円盤投げの試技をして给我们的九州共立大学の学生さんの感想を



山形大学の瀬尾教授(右)とカメラの前で話す斉藤社長

聞くために、何度も九州へ出向いたり、撮影も長期にわたっています。今回の挑戦で、日本人選手の記録が少しでも伸びてくれば、日本人として喜ばしいことだと思います」と話してくれました。

**「超絶凄ワザ！」放送予定**

10月30日(月)

夜10:25~

NHK総合テレビ

ぜひご覧ください